

2021年8月6日

新産業廃棄物最終処分場整備のあり方検討委員会 委員長様

写) 茨城県知事 大井川 和彦 様、茨城県監査委員各位、茨城県議会 議員各位
日立市長 小川 春樹 様、日立市議会 議員各位、マスコミ各位

県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会
代表 荒川 照明 電話 090-9845-7019
日立市台原町 2-10-10

産廃最終処分場の候補地選定に関する公開質問状

この度選定された産廃最終処分場の候補地は広大な唐津沢にあり、**地形上洪水・土砂崩れの危険性が高く、巨大な廃棄物処分場の建設地として最も不適格であるにも拘らず、当該処分場の豪雨時洪水災害については全く論議がなされていない。**唐津沢の谷間に廃棄物の積み上げ計画は、最近熱海市で発生した人災とも言われる土石流の惨事を連想させます。私も「唐津沢の谷間に廃棄物処分場の建設が危険なことを訴える資料」などを添えて、異議申し立てを大井川県知事宛に既に届けておりますが未だに何の応答もありません。なお、「新たな搬入道路の建設は選定要件を逸脱し、巨額な追加予算を伴うため、予算支出を取り止め、改めて産廃処分場の選定をするよう」県に対して**住民監査請求**をしております。

このような経緯で、新産業廃棄物最終処分場のあり方検討委員会の議事録を精査する機会がありました。第4回あり方検討委員会で、県から提示された資料3の表3「整備可能地の要件」には、**豪雨時洪水災害に関する要件がなく、その後の議事録にも洪水災害に関連する文言は全く見当たりません。**また、第6回あり方検討委員会で、県から提示された資料6の「**3次整備可能地の選定について**」においては、M（日立市唐津沢）に対して、「**地形に優れ、自然環境や生活環境への影響も比較的少なく、経済性にも優れていることから、最終候補地として検討する候補になりうる**」とまで真逆な評価をしている[参考資料1]。候補地唐津沢に対して、豪雨時洪水対策を考慮せずに、「**地形に優れ、経済性にも優れている**」との評価は容認できませんので、これに関連した事項について公開質問状をお届けする次第です。ついては、以下の3つの事項について質問いたしますので、**8月末日までに、明確な内容の回答**をお願いします。

1. 候補地唐津沢には「整備可能地の要件」に洪水災害対策が必須ではないか？

図1に示すように、唐津沢降水域面積は大変広く、**1.25 km² (125ha)**であり。沢の上流部には表流水の流れがあり、水路により鮎川に放流しているが、一部は伏流水として掘削部の湛水(湖)流入している。湛水の一部は地下水として鮎川に流出されているため、湛水面の水位は豪雨でもなければあまり変化しない。

整備候補地は赤鎖線で示されるように、鮎川に隣接する唐津沢の出口付近に位置しており、最近県が提示したイメージ図によると、廃棄物最終処分場の廃棄物槽は沢の谷底の湛水部を取り囲むところにあたります。また、赤丸印で示すように、唐津沢の断崖絶壁に沿って8m幅でおよそ1/13の急勾配の新たな外部搬入道路を建設するとのこと。

水防法の規定により、1時間あたりの想定最大降雨量を151mmと仮定すると、1.25km²の広大な降水域を有する唐津沢の全域に降る雨量は52.4m³/sとなる。降雨流出率を小さめにとり0.5と仮定しても、唐津沢出口部の流量は26m³/s（毎秒26トン）にもなり、安全を保障できる洪水対策は現実的に不可能であると言える。

洪水対策・環境保全に関しては、候補地の敷地内だけではなく沢全域の状況が密接に関係することが大きな特徴である。産廃処分場の敷地面積を30haと仮定すると、唐津沢全体の面積125haは4.1倍にもなります。洪水対策の一つとして、唐津沢上流部との一蓮托生の関係を断つためには、沢の中間部に巨大なダムと鮎川までの排水路の建設が考えられますが、膨大な土木工事費が掛かるばかりではなく、環境保全に反するでしょう。なお、谷底に廃棄物槽が建設されますと、集中豪雨時に、周囲の岩壁を伝って流入する雨水の防御や土砂災害を想定した対策は難題で、周囲に防御壁を張り巡らせるなどの巨額な土木工事を施しても洪水対策が十分に達成できるとは思えません。したがって、「豪雨時洪水災害に関する問題は意図的に回避されたのではないかとの疑義」を禁じえません。

そこで改めて質問いたします。広大な降水域を有する唐津沢の出口部分の候補地に対して、豪雨時洪水対策を考慮せずに、「地形に優れ、経済性にも優れている」との評価は、不適切だったと思われそうですが、どの様にお考えでしょうか？

2. 唐津沢の地形は採掘により大きく変わっています。どのような資料で判断したか？

唐津沢の候補地付近の地理院の標準地図を図2に示す。この地図によると、湛水（湖）は見当たらず、唐津沢の出口部分は標高120m-130mで、現場観察より多少広々と感じられ、石灰岩掘削の窪地らしきところは認められない。そこで、図2に示された断面表示位置について、横方向断面図を図3に、縦方向断面図を図4に示す。これらの図を最近県から提示された上側に示す地表・地質調査の断面図と比較すると、下側に示す地理院の地図は掘削以前のものであり、唐津沢が比較的広々とした穏やかな状態を表示していると思われる。

図3の横方向断面図より、下側の地理院の断面図では、谷底幅はおよそ200mほどの広々とした穏やかな形状であるが、上側の地表・地質調査の断面図では、谷底幅はおよそ50m位の深い谷の形状である。掘削は横方向幅およそ100mで、平均深さはおよそ25mで行われたと推定される。

図4の縦方向断面図より、下側の地理院の断面図では、標高120mほどの県道37号から緩やかに地表を高めながら、谷を900mほど遡ったところで標高200mになる穏やかな形状であるが、上側の地表・地質調査の断面図では、谷底は広い範囲に渡り標高100m位まで掘削されて、広大な湛水（湖）が形成されている。湛水面は、標高110mと表示されている。

掘削は縦方向幅およそ 500m で、平均深さはおよそ 25m で行われたと推定される。

したがって、唐津沢の採掘量は、およそ 125 万 m^3 (100mx500mx25m) と推測される。採掘跡を埋め戻すには、少なくとも 100 万 m^3 の土砂の補填を要し、莫大な費用が掛かる。廃棄物貯蓄槽の設置については、「地下水位」(地下水位が地表面付近にない)との要件や「埋立規模要件」(全国平均埋立高さ(山間地)は 15m なので、埋立容量 244 万 m^3 に対しては、相当に広い埋立面積を要する)などの制約がある為、大変でも採掘跡は埋め戻して採掘前のように広く平坦な敷地を確保すべきである。なお、急峻な深い谷地のままでは、廃棄物貯蓄槽の建設地としては極めて不向きな地形である。

しかしながら選定理由欄には、「地形を活用し、低い概算工事費で建設可能」と表記されていますが、谷地形の地形をどのように活用し、どのようにして低い概算工事費とするのか根拠を示し、その当時検討された資料は、現状の急峻な深い谷地のものか、あるいは掘削前の広々とした穏やかな形状のものかについても示していただきたい。

3. 3次整備可能地の外部搬入道路要件は県により変えられた。どのように思われるか？

「外部進入道路要件、主要道路からの距離」(2車線以上の幅員を有する道路からの直線距離が 1 km 以内の区域内である)との整備可能地の要件をすべての候補地に適用して選定したにも拘らず、最終的な段階で、県自らが「外部進入道路要件」に違反して新たな搬入道路の建設を計画することは明らかな背信・不当行為であります。したがって、日立市諏訪町の候補地選定の根拠は崩れたので、直ちに再選定をすべきです。

第 6 回委員会議事録によると、県提出の 3 次整備可能地の選定結果では、「○評価の数が 9 個以上である 3 箇所が選ばれ、○評価の数が 8 個のところは 4 箇所あったにも拘らずそれらはすべて切り捨てられました。」○評価の数が 1 個差での厳しい線引きには、委員の皆様が大変苦慮された様子が伺えますが、県提出の選定結果はそのまま容認されました。

この度の新たな搬入道路建設は、200 億円とも言われる工事費の浪費だけでなく、自然環境や生活環境への影響が大了。これまで日立市諏訪町は、○評価の数が 12 個で最優秀とされていますが、候補地の再評価をすると、○評価の数が大幅に減少し 3 個となります。

県自らが「外部進入道路要件」に違反して新たな搬入道路の建設を計画することは、貴委員会に対しても明らかな背信行為であると推察されます。事前あるいは事後にでも、審議などがあって委員会としては了承できる理由・要因があったのでしょうか？

(文責：鈴木鐸士) 日立市千石町 1-15-26 電話 090-3546-1796

添付資料

参考資料 1：第 6 回あり方検討委員会、資料 6 「3 次整備可能地の選定について」

図 1：唐津沢降水域と整備候補地の説明図

図 2：唐津沢の地理院地形平面図と断面表示位置図(地表・地質調査の調査地点平面図添え)

図 3：唐津沢横方向断面図の地理院地形断面図と地表・地質調査横方向断面図との比較

図 4：唐津沢縦方向断面図の地理院地形断面図と地表・地質調査縦方向断面図との比較

3次整備可能地の選定について

評価項目の評価結果及び総合評価の結果、自然環境、生活環境、経済性等に優れている以下の3箇所が、候補地として適地と考えられるため、3次整備可能地として選定する。

選定理由は、以下のとおり。

3次整備可能地の選定箇所一覧

箇所	選定理由
F	<p>河川上流部の丘陵地に囲まれた耕作放棄地や周辺の山林で構成される。建設するに当たり沢地形（底部）を活用することで、比較的低い概算工事費で建設可能。</p> <p>台地からの湧出水処理の措置は必要になるが、不透水性の岩盤で強固である。</p> <p>住居数はほぼ平均であるが、離れている。排出重心から比較的近いことから、利便性が高い。</p> <p>これらを踏まえると、地形に優れ、自然環境や生活環境への影響も比較的少なく、経済性にも優れていることから、最終候補地として検討する候補になりうると思われる。</p>
K	<p>河川中流部の東側にある山地で、複数の小さな沢地で構成される。建設するに当たり、複数の沢地形を活用することになるが、低い概算工事費で済む。</p> <p>岩盤表面は風化し、一部地下水が浸み出るなど、遮水対策が必要であるが、不透水性の岩盤である。</p> <p>希少種の生息可能性があるものの、住居が比較的少ないうえ、下水道整備区域までは近い。</p> <p>これらを踏まえると、地形に優れ、自然環境や生活環境への影響も比較的少なく、経済性にも優れていることから、最終候補地として検討する候補になりうると思われる。</p>
M 目立市 唐津沢	<p>山地で、谷地形となっている。建設するに当たり、地形を活用し、低い概算工事費で建設可能。</p> <p>不透水性の岩盤で強固であり、生物の多様性に乏しい。</p> <p>近隣に住居がなく、事業場が僅かにあるが、下水道整備区域までは近い。</p> <p>これらを踏まえると、地形に優れ、自然環境や生活環境への影響も比較的少なく、経済性にも優れていることから、最終候補地として検討する候補になりうると思われる。</p>



唐津沢降水域面積
1.248平方キロメートル
(124.8ヘクタール)

湖面面積
7.3ヘクタール

- 分水嶺
- 河川
- 市境界線
- 標高290m ~
- 標高220m ~ 290m
- 標高 ~ 220m
- 唐津沢降水域

図1：唐津沢降水域と整備候補地の説明図

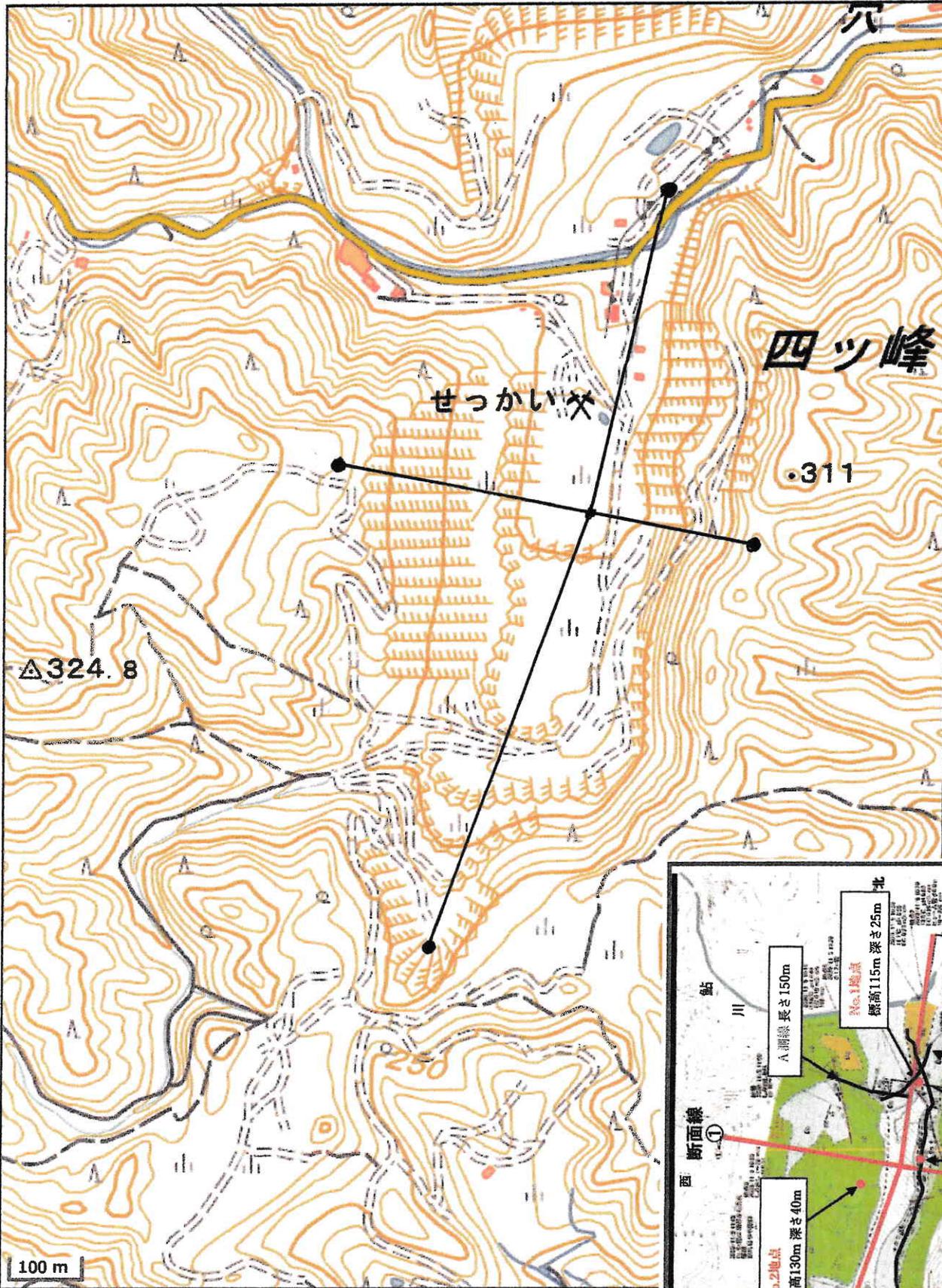


図2：唐津沢の地理院地形平面図と断面表示位置図

(地表・地質調査の調査地点平面図添え)

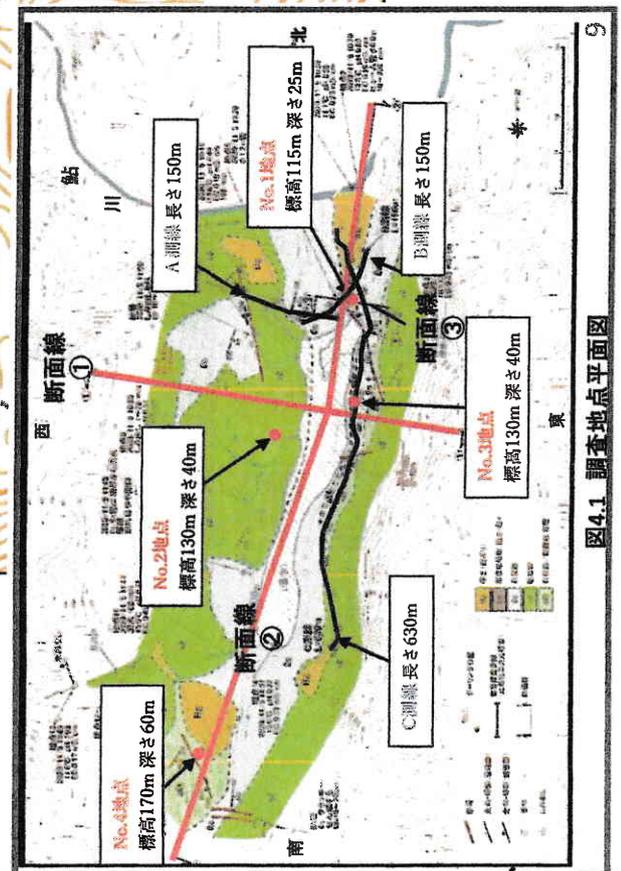


図4.1 調査地点平面図

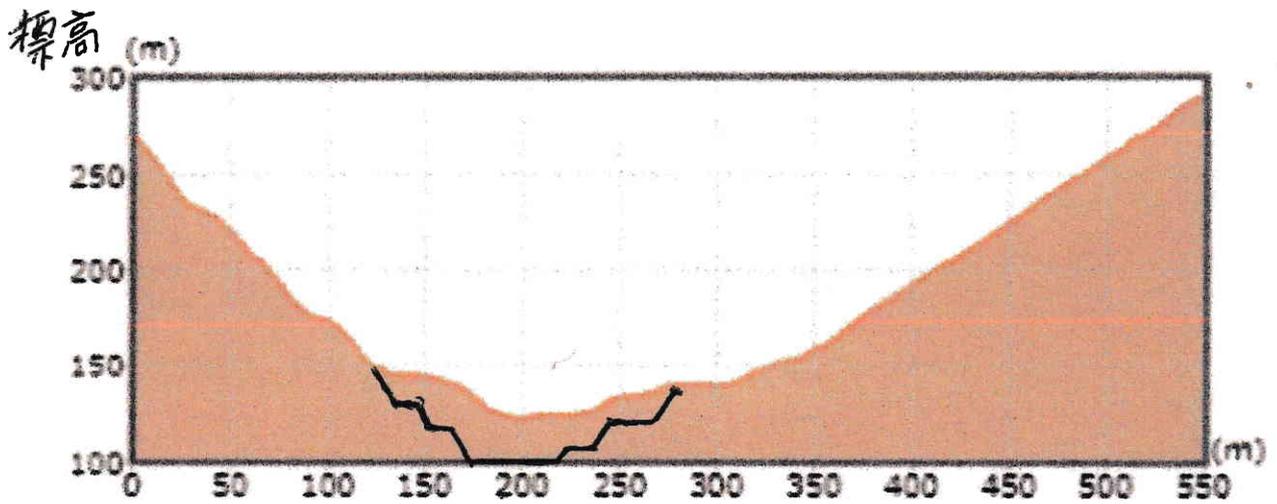
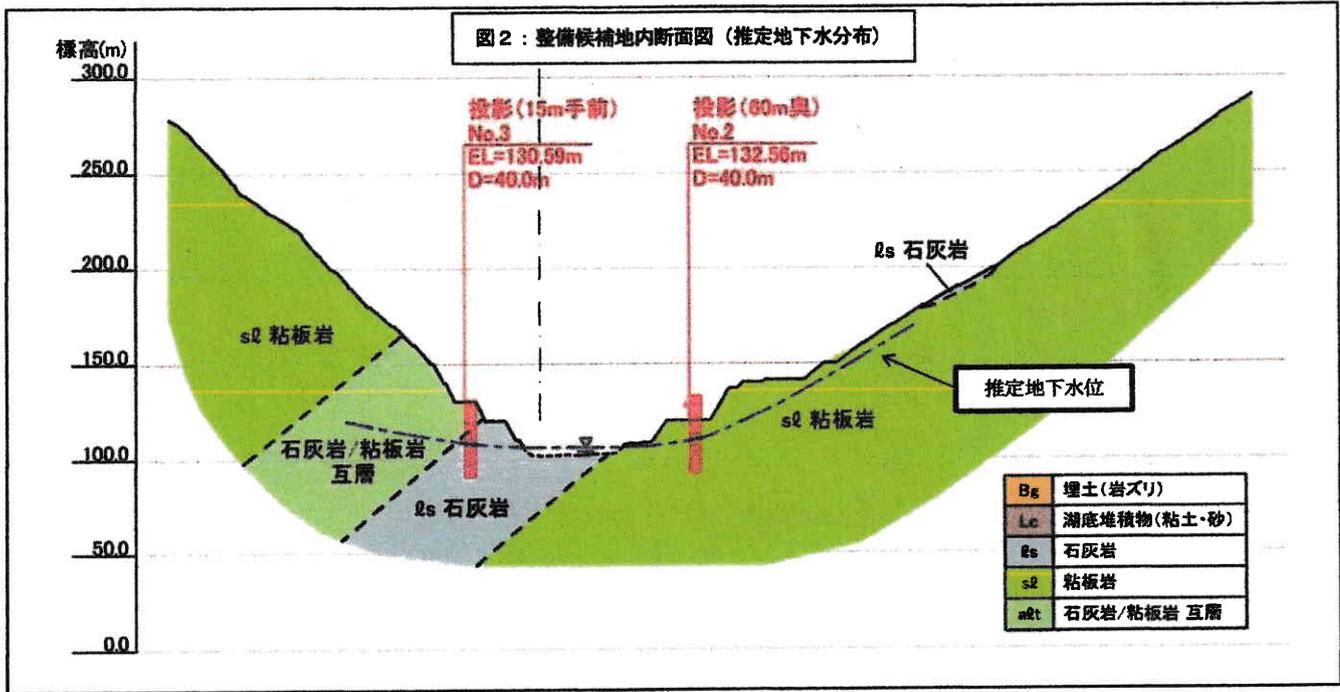


図3：唐津沢横方向断面図の地理院地形断面図（下側）と

地表・地質調査横方向断面図（上側）との比較

図4.4 ボーリング調査断面図(断面線②)

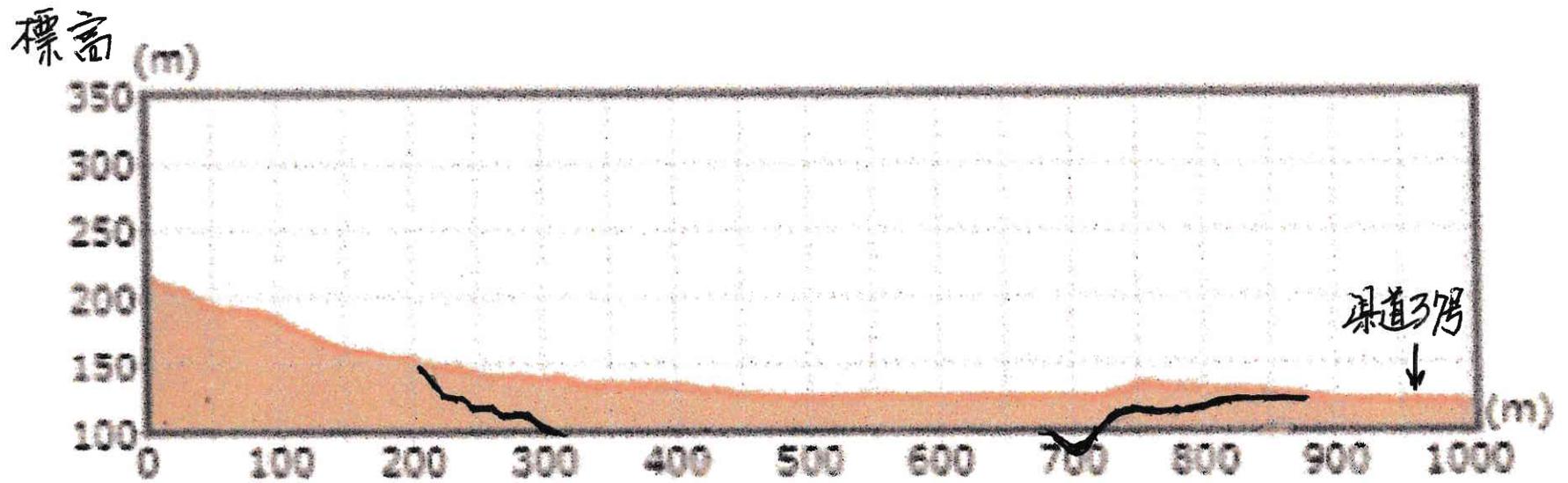
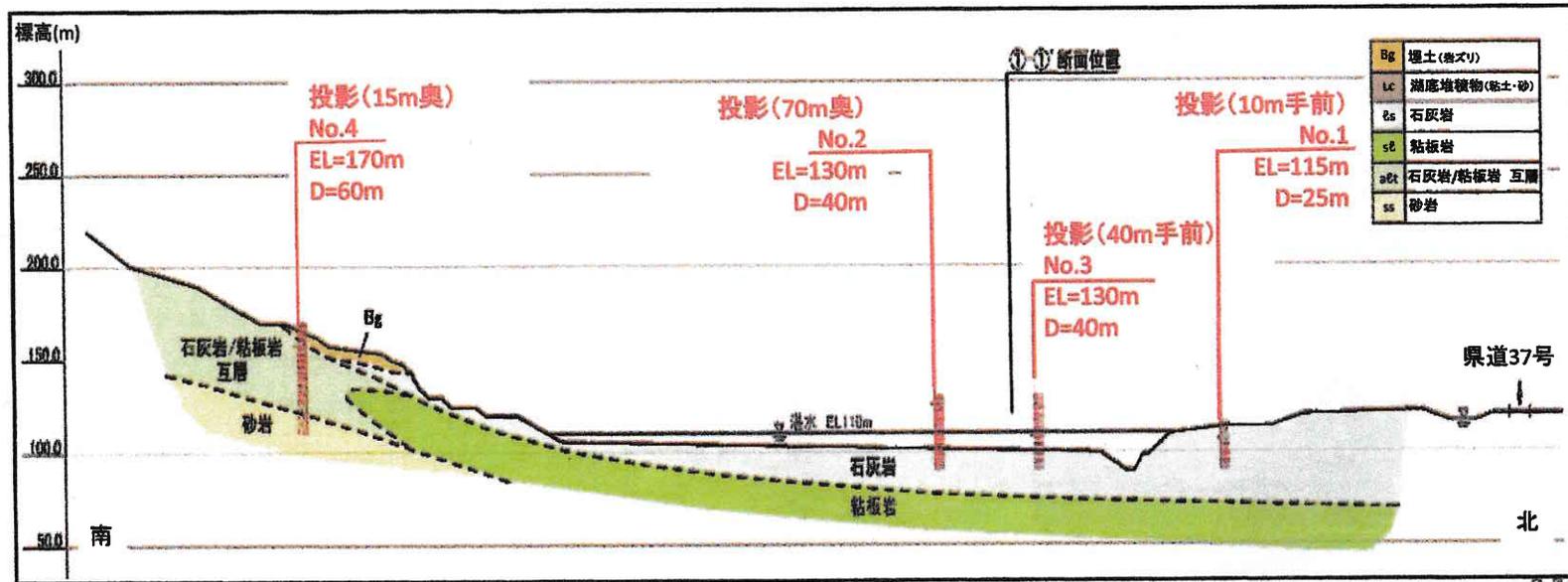


図4：唐津沢縦方向断面図の地理院地形断面図（下側）と

地表・地質調査縦方向断面図（上側）との比較